

日本医史学会会報

58号(復刊)

令和4年10月30日

第124回日本医史学会総会・学術大会の開催にあたって	会-1
第123回日本医史学会愛媛松山大会を終えて	会-2
第123回日本医史学会総会学術大会に参加して	会-4
第123回日本医史学会 会員大会	会-6
(資料A) 2021年度 関連医史学団体報告	会-9
資料1~3	会-14
雑報(寄贈本リスト)	会-17
日本医史学会への寄付金について	会-19

第124回日本医史学会総会・学術大会の 開催にあたって

会長 町 泉寿郎

来年度2023年6月3日・4日に開催される第124回日本医史学会総会・学術大会の会長を拝命した二松学舎大学の町泉寿郎です。会場となる二松学舎大学九段校舎1号館(東京都千代田区三番町6-16)は、皇居を挟んで東京駅の反対側に位置し、千鳥ヶ淵や靖国神社から至近の場所にあります。漢学者三島中洲が明治10年10月10日に現在地に創設した漢学塾を起源とし、その後旧制専門学校となり、戦後は人文系の新制大学として歩んできました。したがって、弊学で医薬系の学会が開催されることは従来殆どありませんでしたが、実は1928年(昭和3)に前身である奨進医会を改組して本学会が誕生した時、その初代理事長と

なった呉秀三先生(1865-1932, 東京帝大医学部精神病学科教授)は、開塾から日の浅い1880年(明治13)10月1日に15歳8ヶ月で二松学舎に入学されています。呉先生は弊学における日本医史学会の開催を必ずや喜んでくださるはずです。

2019年末からのCOVID-19パンデミックの影響を受けて、弊学でも大規模な国際学会・全国学会が開催される機会は激減し、来年開催される本学会は弊学にとって恐らくコロナ後初めての大規模な学会になると思います。会場は比較的アクセスの良い場所にあります。今後の感染状況に配慮し、また全国各地の会員諸氏になるべく多く参加していただきたいと考えて、敢えて対面式とオ

オンラインのハイブリッド開催とすることに致しました。

今回、我々は学術大会のテーマとして「医療と文化—文化的継承・異文化理解—」を掲げました。「文化的継承」という副題は日本において医師たちが文化の担い手として重要な意義をもったことに光を当てたいという思いからです。「異文化理解」という副題は、東アジアの伝統的な医療文化を再発見する機会としたいという思いからです。

準備状況の一端をお知らせします。第一日(6月3日)の特別講演として三笠宮彬子女王殿下による「海軍省お雇い医師ウィリアム・アンダーソンが日本に残したもの」、小曾戸洋先生(本会前理事長・武田科学振興財団杏雨書屋副館長)による「福井崇蘭館の事跡と蔵書」、佐藤保先生(元二松学舎理事長・お茶の水女子大学学長)による「入澤達吉の詩文」をご講演いただきます。また丸山裕美子・岩間真知子・稲松孝思の各先生に登壇いただきシンポジウム「医療と文化」を開催します。

第二日(6月4日)の市民公開講演としてロバー

ト・キャンベル先生による「日本文学における病」、教育講演として坂井建雄理事長による『『医学史事典』が語る医史学の世界』をご講演いただきます。また、加藤茂孝・柳川錬平・星野卓之の各先生に登壇いただき市民公開シンポジウム「歴史から学ぶ感染症への視点」(渡部幹夫座長)を開催します。

更に、学会前後の時期に、会場の二松学舎大学に加えて、大阪道修町の武田科学振興財団杏雨書屋と東京駒込の東洋文庫において、記念展示を開催します。杏雨書屋では「医家の詩文と書画(その2)」と題して江戸後期の医家の学芸文化を紹介します。東洋文庫では善本漢籍や浮世絵類などを通して、医学における異文化接触を紹介します。二松学舎では明治以降の医家の資料により文化的継承の一端を紹介します。

更にプログラムの充実を計ってまいりますので、一人でも多くの会員諸氏に演題を応募いただき、学会を盛り上げていただくよう心から願います。来月6月に二松学舎大学で、皆さまにお目にかかれることを楽しみにしております。

第123回日本医史学会愛媛松山大会を終えて

土手健太郎

愛媛県立中央病院 麻酔科集中治療センター

第123回日本医史学会総会・学術集会は、大会長：土手健太郎愛媛県立中央病院前集中治療センター長、名誉会長：村上博愛媛県医師会長、高石和社会医療法人石川記念会HITO病院麻酔科長、事務局長兼実行委員長：藤谷太郎愛媛県立中央病院副院長のもとに、長い医史学会の歴史の中で、初めて四国の愛媛松山で、2022年5月14(土)、15日(日)の2日間の対面での開催と、翌16日(月)のオプションツアーを無事に終えることができました。これらもひとえに会員の皆様の御協力、御助力の賜物と考えております。会員の皆

様に心より感謝申し上げます。

特別講演は2題行いました。まず、「医史学からの風」として日本医史学会理事長坂井建雄(順天堂大学医学部 医史学研究室)先生に「近代医学が歩んできた道—世界の中の日本の医学」のお話を頂き、次いで「愛媛からの風」として郷土史に詳しい友澤明(西条市教育委員会 社会教育課／小松温芳図書館・郷土資料室 学芸員)先生に「伊予の甲冑の歴史—古代から近世に続く多様性と機能—」として愛媛の医学・医療史についてお話をいただきました。



第123回日本医史学会学術大会

会長	土手 健太郎 (愛媛県立中央病院集中治療センター)
名誉会長	村上 博(愛媛県医師会会長) 高石 和(社会医療法人 石川記念会HITO病院麻酔科)
特別講演	坂井 建雄 先生(順天堂大学) 友澤 明 先生(愛媛県西条市小松温労図書館)
シンポジウム	「地方で医史学の花を咲かせよう」
後援	愛媛県医師会、愛媛県立中央病院

伊予松山で
つどうぞなもし



会期: 2022年
5月14-15日(土・日)
会場: 愛媛県医師会館
(〒790-8585
愛媛県松山市三番町
4丁目5-3)

第123回 日本医史学会

総会・学術大会

教育講演は、「臨床からの風」として6題行いました。まず、最初に、「心臓血管外科の進歩」を石戸谷浩(愛媛県立中央病院 心臓血管外科部長)先生に、2番目に「脳神経外科の過去・現在・未来一本邦における脳神経外科の歩みと今後の動向」を大上史朗(愛媛県立中央病院 脳卒中センター長)先生に、3番目に「放射線科画像診断～過去から未来へ」を三木均(愛媛県立中央病院 画像センター長)先生に、4番目に「肝臓病の医学史―肝炎ウイルスの拡散と制御―」を道亮浩二郎(済生会今治第二病院 顧問)先生に、5番目に「新型コロナウイルス感染症パンデミックと我が国の対応」を四宮博人(愛媛県立衛生環境研究所長/愛媛大学客員教授)先生に、6番目に「愛媛の漢方医学」を山岡傳一郎(前愛媛県立中央病院 東洋医学研究所長)先生に話して頂きました。

いろいろな分野の第一線で活躍中の臨床医で医学医療史にも興味をお持ちの先生方に、臨床各科の歴史と現状についてお話して頂くことで、最近の数十年の臨床各科の進歩を理解できたと思って

います。ただ、時間の関係ではほかの臨床各科の分野の最近の歴史が抜けてしまったことを残念に思いました。

「地方で医史学の花を咲かせよう」と題したシンポジウムを行いました。司会は私土手健太郎と坂井建雄先生にお願いし、それぞれの地域で医史学の発展に中心的な役割を務めている4人の先生方に、1.「三津同盟と村上玄水」川島真人先生、2.「出雲国の医学」梶谷光弘先生、3.「江戸時代中期の讃岐の蘭方医合田強について」板野俊文先生、4.「革新藩・大洲」坂山憲史先生の講演を頂きました。その後、地方で医史学を遂行していく上での喜びや苦勞を語って頂きました。地方在住で医史学を志す者たちへ少しでも参考になればと思います。

今回の3年ぶりの対面開催にあたり、従来のとおりのお会場討論や深い議論が行われ、会員の皆様に貴重なご意見をお伺いする場ができたことを会長として参加者の皆様に深くお礼申し上げます。しかし、コロナの蔓延のため、一般演題や大会参



加者が若干少なかったことは大変残念に思いました。一般講演は、口演(40題)と誌上発表(9題)でした。一部の講演は第一会場と第二会場に分かれての発表となりました。参加人数が限られたなかでの2会場の運営では会場討論や深い議論ができにくく、できれば1会場のみで運営できればより活発な会になったのではと思いました。

来年の第124回東京大会はハイブリッドでの開催が決定しておると聞いております。これからはWith coronaの時代が続くことも予想されます。松山大会は現地開催のみで行いましたが、今後、

現地開催とオンライン開催を応用したハイブリッド開催の一つの試金石になり会員の皆様により良い本学会の運営を考える一助になれば幸いです。松山大会の経験の全てをご提供するとお約束するとともに、来年こそは現地開催の良さとオンライン開催の良さを兼ね備えた総会・学術集会が実施できることを念じて止みません。役員・会員の皆様方に第124回東京大会への絶大なる応援をお願い申し上げ、拙報を締めくくりたいと思います。第123回松山大会へのご理解とご協力、誠にありがとうございました。

第123回日本医史学会総会学術大会に参加して

町 泉寿郎

第124回総会会長

一昨年の121回大会(日本医科大学)・昨年の122回大会(島根大学)がオンライン開催を余儀なくされた後を受けて、今年度の第123回総会・学術大会が愛媛県松山市において対面で実施されたことは、土手健太郎会長の大英断であったと思います。筆者自身この3年間、対面式の学会・講演会に出席する機会は殆ど失われていたので、今回、学会参加によって得られる知的刺激・情報交換・人的交流を久しぶりに体感できたことに対し土手会長に深甚なる謝意を表します。コロナ以

前には当たり前だったものの価値を再認識することができたと言う意味で、パンデミックも悪いことばかりではなかったと感じています。

大会に先立って、5月13日(金)の夕刻から東京第一ホテル松山で開催された理事会・社員総会とその後の懇親会でも、土手会長はじめ大会関係者一同の手厚いもてなしを参加者全員心ゆくまで堪能しました。ただ、「こんなに御馳走が出たら、次にやる人は大変だ」という声は筆者の胸に重くこたえるものでした。

大会会場となった愛媛県医師会館は、第一会場の正面に松山城天守が望め、繁華街からも近い絶好のロケーションにあります。初日の一般口演セッションは二会場で計24演題、2日目は一会場で計16演題が報告されました。コロナ下での開催のため例年より一般演題数は少なめでしたが、却って聴衆は一会場でじっくりと聴講でき、活発な質疑応答にもなり易かったと感じます。

正午過ぎに開かれた総会では、第34回回数医史学賞が洋学史学会監修『洋学史研究事典』(思文閣出版)と藤本大士氏の『医学とキリスト教』(法政大学出版局)に、第28回富士川游学術奨励賞が松村紀明氏の「明治種痘の研究」に、授与されました。心より祝意を表します。

午後は坂井建雄理事長の特別講演から再開されました。次々に公刊された大著の精髓を摘要した見事な内容であったと思います。

教育講演「臨床からの風」5題は、心臓血管外科・脳神経外科・放射線科・肝臓病・新型コロナウイルス感染症と、それぞれ医療現場の一線に立つ医師による報告であり、本学会としては極めて異例かつ貴重な機会になったと思います。

2日目、15日(日)の一般口演では、土手会長が敬愛する華岡青洲に自ら扮してかつら・手術用衣裳を着けて登壇されたのには一同驚かされました。また乳癌手術は1810年代には多く行われていたが、1830~40年代になるとむしろ減少するという報告趣旨は大いに参考になりました。

午後は、山岡傳一郎氏のアフターランチセミナー「愛媛の東洋医学」が行われ、山岡氏が石坂宗哲に傾倒し、石坂宗哲流の鍼灸を実践しておら

れると知り、シーボルトと石坂宗哲の交流に関心を持っている筆者は強い興味を覚えました。

公開シンポジウムが時節柄、公開とならなかったことは残念でしたが、川瀧・梶谷・板野・坂山各氏が地方都市で医史学研究に成果を挙げてこられたことにあらためて敬意を覚えました。

また、特別講演「伊子の甲冑の歴史」では、初めて本物の甲冑を装着する様子を目の当たりにし、戦国期江戸初期の上級武将の装束に知見を得ることができました。

会場3階に急遽設えられた医学史資料の展示にも触れておきたいと思います。展示品の多くは土手会長個人の収集品のように拝察しましたが、華岡青洲書簡、坪井信道書簡などいずれも内容の濃い書簡であり、見応えのあるものでした。

筆者は初日14日午前の一般口演は第二会場を中心に聴講し、吉川澄美・尾崎貴久子・浅井皓平・永藤欣久ら諸氏の報告が印象に残りました。15日の一般口演では松崎範子・海原亮・黒野伸子・星野卓之ら諸氏の報告が印象に残りました。これは次期大会会長の立場からではなく、本誌編集委員長の立場から、一般演題の演者諸氏にはぜひ論文化して本誌へご投稿いただくようお願いしたいと思います。

繰り返しになりますが、松山において素晴らしい学術大会を開催して下さった土手会長、ならびに関係各位にあらためて心から感謝の言葉を捧げたいと思います。併せて、次年度は二松学舎大学で皆様に再会できることを楽しみにしております。

第 123 回日本医史学会 会員大会

去る 2022 年 5 月 13 日に社員総会が開催され、書面による議決権行使を含め過半数の承認を得て全ての議案が可決されました。但し、総会後に変更になった事業計画は変更を反映しました。

I. 報告事項(2022年3月31日現在)

1. 2021年度庶務報告

(1) 会員の動静

- ・ 入会者 33 名
- ・ 退会者 51 名

死亡会員 6 名

あかさ ぶ かずとも
赤祖父一知 (2021年9月27日逝去)

なかしま しょういち
中島洋一 (2021年7月19日逝去)

みやがわ たかひろ
宮川隆弘 (2021年8月26日逝去)

あめの もり まさたか
雨 森正高 (2022年1月5日逝去)

ひぐち てるお
樋口輝雄 (2021年8月30日逝去)

や ながたかし
矢永尚士 (2022年2月25日逝去)

都合退会 45 名

- ・ 現在会員数 655 名 正会員 605 名 (内 団体会員 5 名, 海外会員 27 名, 国内個人正会員 573 名)
- | | | | |
|------|------|------|------|
| 学生会員 | 26 名 | 名誉会員 | 10 名 |
| 功労会員 | 13 名 | 賛助会員 | 1 名 |

(2) 受賞

第 27 回富士川游学術奨励賞

ひらお まちこ
平尾真智子

2. 2021年度事業報告

事業名		内 容	
日本医史学雑誌		第 67 巻第 2・3・4 号, 第 68 巻第 1 号 発行	
第 122 回日本医史学会総会 会長 <small>ながの ひとし</small> 長野 仁		オンデマンド配信	2021 年 9 月 18 日 (土) ～ 19 日 (日)
日本医史学会月例会		オンライン	4, 5, 6, 10, 11, 1, 3 月 第 4 土曜日
日本医史学会 9 月例会	共催	日本医史学会神奈川地方会秋季例会との合同	
		オンデマンド配信	22021 年 9 月 4 日 (土) ～ 18 日 (土)
安藤文澤と安藤太郎父子 特別展	後援	高麗神社	2022 年 3 月 12 日 (土) ～ 21 日 (月・祝)

3. 第 34 回矢数医史学賞選考委員会報告

洋学史学会 監修『洋学史研究事典』（思文閣出版）

ふじもとひろし

藤本大士 著『医学とキリスト教—日本におけるアメリカ・プロテスタントの医療宣教』

（法政大学出版局）

4. 第 28 回富士川游学術奨励賞選考委員会報告

まつむらのりあき

松村紀明「明治種痘の研究—補完する積善社と対立する種痘勸—」

（日本医史学雑誌第 67 巻第 1 号掲載）

5. 関連医史学団体報告（資料 A）

6. その他

- ・ 医学史事典の報告

II. 協議事項

第1号議案 2021年度決算報告に関する件(資料1-2)

第2号議案 2022年度事業計画案に関する件

事業名		内容	
日本医史学雑誌		第68巻第2・3・4号, 第69巻第1号 発行	
第123回日本医史学会総会 会長 土手健太郎	(準備)	愛媛県医師会(愛媛県)	2022年5月14日(土) ~15日(日)
第124回日本医史学会総会 会長 町 泉寿郎	(準備)	二松学舎大学九段校舎 (東京都)	2023年6月3日(土) ~4日(日)
第125回日本医史学会総会 会長 瀧澤利行	(準備)	水戸市民会館(茨城県)	2024年9月14日(土) ~15日(日)
第126回日本医史学会総会 会長 鈴木則子	(準備)	(奈良県)	2025年
日本医史学会月例会		オンライン	4, 6, 10, 11, 1, 3月 第4土曜日
日本医史学会9月例会	共催	日本医史学会神奈川地方会秋季例会との合同	
		鶴見大学	2022年9月17日(土)
日本医史学会12月例会	共催	日本薬史学会・日本獣医史学会・日本歯科医史学会・ 日本看護歴史学会・洋学史学会との合同	
		オンライン	2022年12月17日(土)
神農祭は中止 (神農廟特別公開あり)	協賛	湯島聖堂	2022年11月23日(水・祝)

第3号議案 2022年度予算案に関する件(資料3)

第4号議案 定款変更の件

(現行)

定款第26条3やむを得ない理由のため、社員総会に出席することができない代議員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって決議し、又は他の代議員を代理人として決議を委任することができる。

(変更案)

定款第26条3やむを得ない理由のため、社員総会に出席することができない代議員は、あらかじめ通知された事項について、書面または電磁的方法をもって決議し、又は他の代議員を代理人として決議を委任することができる。

(資料A)

2021年度 関連医史学団体報告

北海道医史学研究会

活動休止中

新潟支部

今年度は支部としての例会、発表は行われなかった。

なお支部事務局の所在は従来通り、日本歯科大学新潟生命歯学部医の博物館である。

2021年度(令和3年)中の支部会員の学会発表などは次の通りである。

【著書】

1. 落合知子編, 医歯薬学系博物館事典, 雄山閣, 東京, 2021, ISBN978-4-639-02753-9
- 1) 佐藤利英(分担): 医の博物館, 79.

【原著】

1. 樋口輝雄, 中原 泉: 大隈重信と富士見町, 日本歯科医史学会雑誌, 34(3): 243-248, 2022.

【報告・紀要】

1. 西巻明彦: 樋口輝雄先生を偲んで, 日本歯科医史学会雑誌, 34(3): 219, 2022.
2. 佐藤利英: 日本歯科医史学会理事 樋口輝雄先生を偲ぶ, 日本歯科医史学会雑誌, 34(3): 220, 2022.
3. 西巻明彦, 齊藤伊久太郎, 加治隆: 剥製トキに関する調査研究報告書, NPO法人日本アメニティ研究所, 10-13, 2022年2月15日
4. 佐藤利英: 医の博物館, 新潟県博物館協議会加盟館一覧, 新潟県博物館協議会, 令和3年度版: 46, 2021.
5. 佐藤利英: にいがたぐるっとミュージアムガイドブック, 新潟県民生活・環境部 文化振興課, 42, 2021.

【学術大会・講演会・研究会・研修会等での講演】

1. 西巻明彦: 医史学にみる「習合」と「分離」. 第122回日本医史学会, Web開催, 2021年9月18日~19日
2. 西巻明彦: 歯科医学史の起源. 第24回日本歯科医学会学術大会併催第49回日本歯科医史学会学術大会, Web開催, 2021年9月23日~25日
3. 西巻明彦: トキとドードーのクチバシは歯はあるか? ~バイオエシックスの立場から. 日本歯科医史学会第482回Web例会, 2021年12月17日

〒951-8580 新潟市中央区浜浦町 1-8 日本歯科大学新潟生命歯学部医の博物館内
電話 025 (267) 1500 e-mail: toshi@ngt.ndu.ac.jp 日本医史学会新潟支部(佐藤利英)

北陸支部

1. 会員数：29名（令和3年12月31日現在）

2. 活動報告：

(1) 例会・総会：中止

（新型コロナウイルス感染防止の措置により）

(2) 「北陸医史」第44号発行延期

(3) 幹事会・連絡会：メール審議

（新型コロナウイルス感染防止の措置により）

3. 連絡先：

〒920-8640 金沢市宝町13-1

金沢大学医薬保健研究域医学系血管分子生物学教室内

北陸医史学会事務局（篠原治道，新村祐子）

電話：076-265-2182

E-mail: n-yuko@med.kanazawa-u.ac.jp

神奈川地方会

第56回神奈川地方会春季例会は新型コロナ感染症感染拡大に伴い、中止となりました。第57回神奈川地方会秋季例会と日本医史学会との合同例会は、新型コロナウイルス感染拡大が収まらず会場での開催が困難なため、オンデマンド配信での開催となりました。

以下第57回のプログラムを紹介させていただきます。

第57回神奈川地方会秋季例会と日本医史学会の合同例会（オンデマンド形式）

I 特別講演：（50分）

「脳外科医からみたロボットミーの歴史」

演者：田中雄一郎先生

聖マリアンナ医科大学 脳神経外科 教授

II 一般演題：（20分）

「明治以降の精神療法界の流れと、その中での戦後の神奈川人脈の活躍について—医療人類学的考察を含めて—」

演者：澤野啓一先生

脈管科学研究所，東京大学理学系研究科生物科学大講座人類学専攻

2022年3月30日

日本医史学会神奈川地方会事務局

東海支部

『伊藤圭介日記』（第27集）出版についての後援活動を行った。

（山内一信）

関西支部

▽日本医史学会関西支部 2021年 春季大会・秋季大会 共に中止

▽支部機関誌『醫譚』113号 令和3年6月30日発行

支部機関誌『醫譚』114号 令和3年12月30日発行

上述機関誌の掲載目次は関西支部メールアドレス(下記)をお開き下さい。

〒581-0003 大阪府八尾市本町5-1-7 田中医院内 日本医史学会関西支部事務局(田中祐尾)

☎: 072-922-2028 FAX: 072-993-1237 HP: <http://mhkansai.umin.ne.jp/>

京都医学史研究会

今年度もコロナ禍のため、秋(10月)、春(3月)の学術講演会は中止にいたしました。

しかし、下記

▽山脇東洋観臓記念碑 献花 3月25日 (京都・盟親)

▽山脇東洋解剖供養碑 献花 3月25日 (京都・誓願寺)

▽曲直瀬道三顕彰碑 献花 3月25日 (京都・十念寺)

日本の医学発展に大いに寄与貢献した曲直瀬道三・山脇東洋の墓詣は、例年通り取りおこないました。

岡山医学史研究会

令和3年度岡山医学史研究会

日時: 令和4年1月9日(日) 13:20-17:40

場所: 岡山県医師会館4階(402)

司会: 木村 丹

開会挨拶: 石田純郎代表

座長: 真鍋康二(重井医学研究所附属病院) 13:30-14:50

13:30-13:55 1. 「お墓の写真あれこれ—江戸時代の医師を中心に—」

尾崎 聡(元岡山理科大学付属高校)

13:55-14:20 2. 「医師・窪田次郎の教育活動」

今井 豊(尾道市 歯科医)

14:25-14:50 3. 「岡山大学医学部医学資料室の資料について」

木下 浩(岡山大学医学部医学資料室室長補佐・客員研究員)

座長: 洲崎悦子(就実大学薬学部) 14:50-15:40

14:50-15:15 4. 「庭瀬藩医 常国伯友の紹介」

刈屋憲次(かりや内科)

15:15-15:40 5. 額田家医家三代の墓所—「帝国女子医学専門学校」創設に繋がる系譜—

木村 丹(早島町 木村医院)

座長: 仲田永造(高梁市, 仲田医院) 15:40-16:40

15:40-16:05 6. 県議会における最初の所信表明について

高木寛治(倉敷仁風ホスピタル)

16:05-16:15 休憩

16:15-16:40 7. 世界の美しい病院—その歴史—

石田純郎(中国労働衛生協会)

16:40-17:40 特別講演 座長：石田純郎（中国労働衛生協会）

田中 祐尾先生（田中医院，関西医史学会事務局長）

令和3年業績目録（岡山医学史研究会）

1. 著書

石田純郎『世界の美しい病院—その歴史』全147頁 2021年5月25日刊 吉備人出版。

この本は山陽新聞（7月18日号）、中国新聞（7月18日号）、読売新聞（佐藤信（東大名誉教授，日本古代史専攻）評）の書評で紹介された他，2022年2月2日号の日本経済新聞文化欄でも取り上げられた。

土岐隆信他『林源十郎商店物語』全225頁 2020年3月10日刊 吉備人出版

石田純郎『洋学史研究事典』「解体新書」（151-152頁），「ユトレヒト陸軍軍医学校」（174-175頁），「備前の洋学」（392頁），「備中の洋学」（397頁），「広島県の洋学」（398頁）の項目 2021年9月30日刊 思文閣出版

2. 記事

『適塾54号』「ハルム・ボイケルス教授を追悼する」（9-14頁）2021年12月1日刊適塾記念会（大阪大学）

3. エッセイ 大塚薬報「世界紀行医のある風景」

①土岐隆信「総社市まちかど郷土館 総社売薬関係資料展示」『大塚薬報』2021年1・2月号 26-29頁

②土岐隆信「林源十郎商店記念室」『大塚薬報』2021年3月号 26-29頁

③石田純郎「東京『解体新書』散歩」『大塚薬報』2021年4月号 26-29頁

④石田純郎「「ターヘルアナトミア」の著者クルムスのグダンスク散歩」『大塚薬報』2021年5月号 18-21頁

⑤木村 丹「額田家医家三代の墓所—「帝国女子医学専門学校」創設に繋がる系譜—」『大塚薬報』2021年6月号 26-29頁

⑥石田純郎「種痘の開発者ジェンナーのイングランド散歩」『大塚薬報』2021年7・8月号 26-29頁

⑦石田純郎「緒方洪庵 足守散歩」『大塚薬報』2021年9月号 26-29頁

⑧石田純郎「大坂の適塾」『大塚薬報』2021年10月号 26-29頁

⑨石田純郎「新解釈・ナイチンゲール散歩」『大塚薬報』2021年11月号 20-23頁

⑩石田純郎「坂田快太郎の120年前のプレスラウ通信（前編）」『大塚薬報』2021年12月号 26-29頁

⑪石田純郎「坂田快太郎の120年前のプレスラウ通信（後編）」『大塚薬報』2022年1・2月号 28-31頁

⑫石田純郎「オーストリア・ハンガリー帝国の伯爵夫人 日本人ミツコ」『大塚薬報』2022年3月号 24-27頁

4. 医学史講義（石田純郎）岡山大学医学部医学科2年生 60分×8回

岡山医学史研究会

代表：石田純郎 〒700-0080 岡山市津島福居 1-11-10

事務局：木村 丹 〒701-0304 岡山県都窪郡早島町早島 1469-1

TEL: 086-482-0028, MA: drkimura@r3.dion.ne.jp

広島医史学研究会

新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、2021年度広島医史学研究会・研究発表会は、中止といたしました。

福岡地方会

令和3年度福岡地方会は1度の講演会を開催しました。

※3月に予定しておりました第40回はコロナ禍のため延期しました。

第39回福岡地方会

開催日時：令和3年8月21日（土）13:30～16:30

会 場：福岡ガーデンパレス（福岡市中央区天神 4-8-15）

参加者数：11名（発表者を含む）

【発表者・演題】

上園 慶子	藩医の世界 江戸での診療について
木村専太郎	田原 淳と私
小林 晶	高松凌雲と澁澤榮一
佐藤 裕	医学の発展と「Serendipity」
原 寛	貝原益軒の養生訓
丸山マサ美	歴史教育における映像教材の開発 アニメでわかる看護の歴史・医療倫理の歴史

資料1

貸借対照表

2022年3月31日現在

科目	金額	備考
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金	60,462	
預金	8,205,080	
流動資産 合計	8,265,542	
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
基本財産 合計	0	
(2) 特定資産		
特定預金	8,211,889	
矢数医史学賞基金	7,572,753	
富士川游学術奨励賞基金	3,166,482	
特定資産 合計	18,951,124	
(3) その他固定資産		
華岡碑	3,195,072	
その他固定資産 合計	3,195,072	
固定資産 合計	22,146,196	
資産 合計	30,411,738	
II 負債の部		
1. 流動負債		
前受金	2,780,000	
預り金	50,684	
流動負債 合計	2,830,684	
2. 固定負債		
固定負債 合計	0	
負債 合計	2,830,684	
III 正味財産の部		
1. 一般正味財産		
正味財産 合計	27,581,054	

年会費の納付状況の推移(各年度4/1時点での状況)

	2019/4/1	2020/4/1	2021/4/1	2022/4/1
納付率	89%	88%	86%	90%
納付済	638人	605人	568人	555人
会員数	714人	689人	658人	617人

※ここでの会員数とは、正会員、功労会員、賛助会員、団体会員、学生会員

資料2

正味財産増減計算書


自 2021年4月 1日
至 2022年3月31日

科目	金額	備考
I 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
① 会費収入	7,130,655	
② 助成金	1,397,000	
③ 寄付金	575,000	
経常収益 計	9,102,655	
(2) 経常費用		
① 学会誌刊行費	3,991,281	
② 事業費	674,424	
③ 人件費	3,184,407	
④ 会議費等	6,760	
⑤ 旅費交通費	102,468	
⑥ 通信・運送費	228,336	
⑦ 事務費	36,210	
⑧ 支払手数料	150,000	
⑨ 医学会負担金	82,100	
⑩ 減価償却費	74,304	
⑪ 雑費	16,985	
⑫ 予備費	48,070	
経常費用 計	8,595,345	
当期経常増減額 = (1) - (2)	507,310	
2. 経常外増減の部		
(1) 経常外収益		
① 受取利息	188	
経常外収益 計	188	
(2) 経常外費用		
① 名簿製作費	0	
経常外費用 計	0	
当期経常外増減額 = (1) - (2)	188	
当期一般正味財産増減額 = 1 + 2	507,498	
一般正味財産 期首残高	27,073,556	
一般正味財産 期末残高	27,581,054	
II 正味財産期末残高	27,581,054	

定款第31条に従い、2021年度の資産及び会計について監査した結果、理事の職務執行に不備の点はなく、決算報告書は正確かつ妥当であることを認めます。

2022年4月7日

監事

小曾 洋 

監事

真柳 誠 

資料3

2022年度予算

科目	決算	予算	備考
	自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日		
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 会費収入	7,130,655	8,000,000	
② 助成金	1,397,000	1,100,000	
③ 寄付金	575,000	500,000	
経常収益 計	9,102,655	9,600,000	
(2) 経常費用			
① 学会誌刊行費	3,991,281	4,000,000	
② 事業費	674,424	1,000,000	
③ 人件費	3,184,407	2,900,000	
④ 会議費等	6,760	70,000	
⑤ 旅費交通費	102,468	600,000	
⑥ 通信・運送費	228,336	200,000	
⑦ 事務費	36,210	60,000	
⑧ 支払手数料	150,000	150,000	
⑨ 医学会負担金	82,100	90,000	
⑩ 減価償却費	74,304	74,304	
⑪ 雑費	16,985	30,000	
⑫ 予備費	48,070		
経常費用 計	8,595,345	9,174,304	
当期経常増減額 = (1) - (2)	507,310	425,696	
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
① 受取利息	188	188	
経常外収益 計	188	188	
(2) 経常外費用			
① 名簿製作費	0	300,000	
経常外費用 計	0	300,000	
当期経常外増減額 = (1) - (2)	188	-299,812	
当期一般正味財産増減額 = 1 + 2	507,498	125,884	
一般正味財産 期首残高	27,073,556	27,581,054	
一般正味財産 期末残高	27,581,054	27,706,938	
II 正味財産期末残高	27,581,054	27,706,938	

雑報

寄贈本リスト

【単行本】

- 日本麻酔科学会『麻酔博物館設立10周年記念』2021
 吉村昭記念文学館『吉村昭と東日本大震災』2021
 台湾医学史学会, 杜聰明博士奨学基金会『台湾文化協会百年記念研討会』2021
 洋学史学会 監修『洋学史研究事典』(思文閣出版) 2021
 香西豊子 監修『ぼくらの感染症サバイバル―病に立ち向かった日本人の奮闘記』(いろは出版) 2021
 圭介文書研究会編『伊東圭介日記第二十七集』(名古屋市東山植物園) 2021
 隈部敏明 文, 梶原明彦 絵『伝染病に挑む人々―予防接種秋月物語―』(「予防接種は秋月藩から始まった」キャンペーン推進協議会) 2022
 東京国立博物館『全巻修理完了記念 日本最古の医学書・国宝「医心方」の世界』2022
 吉村昭記念文学館『吉村昭没後15年 私のおきな…』2022
 杉田米行『国際関係の変動と日本医療保険制度史』(国際書院) 2022
 町泉寿郎『前近代の医家たちとその学び―日本近世医学史論考I―』(武田科学振興財団杏雨書屋) 2022
 町泉寿郎『幕府医学館と考証医学―日本近世医学史論考II―』(武田科学振興財団杏雨書屋) 2022
 関凡祥『中文医史研究学術成果索引』2022
 鈴木則子『近世感染症の生活史―医療・情報・ジェンダー―』(吉川弘文館) 2022
 小田なら『〈伝統医学〉が創られるとき: ベトナム医療政策史』(京都大学学術出版会) 2022
 適塾記念会緒方洪庵全集編集委員会 編集『書状(その二) その他文書(附) 適塾姓名録』(大阪大学出版会) 2022
 ミヒェル・ヴォルフガング編『中津市歴史民俗資料館 分館医家史料館叢書XXI『蘭語訳撰』(逆引き版)』(中津市教育委員会) 2022
 新村拓『医療と戦時下の暮らし』(法政大学出版局) 2022
 鈴木友和『近世藩立医育施設の研究』(思文閣出版) 2021
 (代表編者) 小曾戸洋・(共同編者) 町泉寿郎『杏雨書屋所蔵 医聖像集』(武田科学振興財団杏雨書屋) 2022
 岡田靖雄『相馬事件』(六花出版) 2022
 野上秀雄編『医学史年表』(六沢社) 2022
 堀忠『レプラと奇跡―脱神話化と脱医学化に向けて―』(新教出版社) 2022
 青木歳幸, W. ミヒェル『天然痘との闘いIII―中部日本の種痘―』(岩田出版) 2022
 坂井建雄, 池田黎太郎, 福島正幸, 矢口直英, 澤井直『ガレノス―身体諸部分の用途について2』(京都大学学術出版会) 2022
 監修: 島田達生『大分県先哲叢書 田原淳 資料集』(大分県立先哲史料館) 2022
 監修・執筆: 須磨幸蔵, 執筆島田達生『大分県先哲叢書 田原淳 評伝』(大分県立先哲史料館) 2022
 文: 島田達生, 絵: 佐藤寛子『大分県先哲叢書 田原淳 普及版』(大分県立先哲史料館) 2022

【別刷】

『米沢女子短期大学所蔵『幼幼精義』初輯 卷之二 翻刻と訓注』山形県立米沢女子短期大学附属生活

文化研究所

- 『史料・西日本の種痘「わが国種痘伝播と地域医療の近代化に関する史料集成を軸とする基礎的研究」
報告書II』研究代表者 青木歳幸
『大谷大学ヘルンレ文庫目録』ヘルンレ研究会「医譚」日本医史学会関西支部（復刻109号）

【雑誌】

- 『あいまっく』42(3-4), 43(1) 国際医学情報センター
『BIBLIA』(155-157) 天理図書館
『Chinese Journal of Medical History』51(3-6), 52(1-2) Chinese Medical Association
『Chinese Medical Journal』134(11-22) Chinese Medical Association
『大韓韓医学原典学会誌』34(3) 大韓韓医学原典学会
『だより(練馬区医師会)』(644-655) 練馬区医師会
『醫譚』(通刊131-132)(復刊114-115) 日本医史学会関西支部
『いわちどり(小笠医師会誌)』(49) 小笠医師会
『除痘館記念資料室だより』(15) (財)洪庵記念会 除痘館記念資料室
『漢方の臨床』68(11-12), 69(1-9) 東亜医学協会
『啓迪』(36) 京都医学史研究会
『神奈川県医学会雑誌』49(1-2) 神奈川県医師会
『研究紀要』(16) 佐賀大学地域学歴史文化研究センター
『明治薬科大学研究紀要』(51) 明治薬科大学
『日本医師会雑誌』150(8-12), 151(1-7) 日本医師会
『日本歯科医史学会誌』34(3-4) 日本歯科医史学会
『労働の科学』76(9-12), 77(1-8) 労働科学研究所
『斯文』(137) 斯文会
『STETHOSCOPE』(241-244) 日本医学切手の会報
『適塾』(54) 適塾記念会
『東海国立大学機構大学文書資料室紀要』(30) 東海国立大学機構大学文書資料室
『洋学』(29) 洋学史研究会

日本医史学会への寄付金について

2018年より、学会財政の安定化のためにご寄付をお願いしております。その後、数多くの会員の方たちのご厚意をいただき、2021年度(2022年3月末まで)には2,045,000円のご寄付を頂戴することができました。このご寄付により学会の財政基盤を大きく改善することができました。学会から感謝の意を表するために、寄付者のお名前を以下に掲載させていただきます。

2021年度寄付者

・100万円以上

坂井 建雄

・10万円以上

宮川美知子

・5万円以上

辰野 美紀 彦坂 行男

・2万円以上

廣川 和花 真柳 誠 板野 俊文 今井 秀 佐藤 裕(福岡)
 杉田 洋一 田中 祐尾 中澤 淳 福本 正勝 水谷惟紗久 渡辺 浩二

・2万円未満

家本 誠一	泉 孝英	稲松 孝思	榎本 信哉	岡田 靖雄	数間 紀夫
小林 健二	佐藤 辰弥	佐野 新	篠田 達明	高橋 雅夫	滝澤 淳
田中 晃伸	中山 茂春	半井 英江	平尾眞智子	保坂 義雄	柳川 鍊平
柳澤 波香	矢野 雅起	山内 一信	渡部 幹夫	相川 忠臣	青木 歳幸
青島 敏行	猪飼 祥夫	石原 克哉	大幸 俊三	大野 晏且	逢見 憲一
小形 利彦	荻原 通弘	鍵山 稔明	角 泰人	笠原 康弘	北村 正敏
久保田智樹	桑原 正彦	権藤 寿昭	嶋田 俊英	谷中 誠	戸澤 一馬
戸村 光宏	内藤美智子	中神 源一	永藤 欣久	野口 大輔	濱田 新七
牧野 榮次	松浦 洋子	松岡順之介	松村 譲兒	三上 正利	宮武 光吉
山崎 正寿					